

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム 長寿庵

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390800043		
法人名	社会福祉法人 とおの松寿会		
事業所名	グループホーム 長寿庵		
所在地	〒028-0521 遠野市材木町2-22		
自己評価作成日	令和7年12月16日	評価結果市町村受理日	令和8年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の高齢者が安全快適な生活が送れるよう事業目的に沿って以下を現実にし、地域とともに自らも持続発展していく。  
 1 地域社会の一員として、地域に貢献する。  
 2 地域に開かれ、地域に信頼される。  
 3 利用者が尊厳を持ってその人らしい自立した生活が送れるよう支援する。  
 4 常に利用者の立場に立ち、創意工夫して行動する。  
 5 対人関係業務を通じ、人間として成長する場を創ると共に安定した雇用を創出する。  
 可能な限り、住み慣れた地域となじみの関係の中で高齢者が日々の生活を健やかに営み、その人らしい人生を全うできるように寄り添い支援する。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は遠野駅の線路を隔てた住宅地にある二階建ての建物で、地域住民からは「長寿庵」として親しまれている。1階は小規模多機能ホーム、2階にグループホームが併設されている。令和2年度から令和6年度まで諸事情によりグループホームは休止していたが、地域や関係機関、利用者家族等からの要望に応え、令和7年度から再開の運びとなった。隣接して医院(協力医)や保育園があり、ハロイン、クリスマスには事業所を訪問し、特に遠野祭りにはパレード前に衣装を着けた園児が踊りを披露してくれるなど交流を深め利用者を喜ばせている。職員は事業所基本方針の使命を念頭に、利用者が「住み慣れた地域と馴染みの関係の中で、日々の生活を健やかに、人生が全うできる」ように寄り添い支援をしている。事業所として地域の行事に参加したり、事業所開放の夕涼み会を開催し、地域住民や子ども会に参加していただくなど「顔の見える関係」を築いている。避難訓練等には、地域の方が率先して住民に協力要請のお知らせを配布していただいている。これまでの地域との良好な関係から、利用者は地域活動や避難訓練などを通して地域住民の一員として普通に暮らすことが出来る事業所となっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和8年1月16日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 長寿庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	経営理念、事業所基本方針、職員の心構えをフロア内に掲示している。毎日のミーティングで職員の心構えと事業所基本方針は全員で唱和している。また、事業所独自の事業計画の表紙にも掲載し、共有している。	法人設立時からの基本理念のほかに、事業所としての運営方針と基本方針を掲げている。“住み慣れた郷で、「安心できる私の暮らし」をつくる”という運営の方針に基づき、日々のケアが実践されている。事業所基本方針と職員の心構えは、毎日朝礼で1階の小規模多機能ホームの職員と一緒に唱和し、また目につきやすい所に掲示することで、職員が常に意識しながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	4月に事業所のサービスや存在を知っていただくチラシを作成し、町内全戸に配布した。また、コロナウイルスも5類となり、今年は子供会や地域住民向けに夕涼み会を開催し、「顔の見える関係」を築くことができた。季節のイベントごとに保育園や自治体の方々が訪問していただいている。	町内会に加入し、年度初めの総会には職員も出席し、事業所の情報提供も行っている。年2回行われる地区の清掃活動には、利用者も地域住民と一緒に道路清掃に参加している。事業所が主催した夕涼み会には、PTAや保育園、近隣住民に声をかけ、子どもから高齢者まで多くの参加があり賑わった。町民運動会や桜まつりなどの町内の行事には、町内会の一員として職員が参加し、利用者も見学し地域住民と一緒に楽しんでいる。保育園児との交流や、避難訓練の際には、地区の方が案内を地区民に配布し、協力要請をしてくれるなど、利用者は地域とつながりながら日々生活をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	市内一斉清掃の時に、事業所前の通りを職員と利用者と一緒に草取りをしたり、掃除をするなど取り組みを行った。桜の時期には職員が入部行列に参加し、利用者は沿道で見て楽しむことができた。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム 長寿庵

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2か月に1度開催している。事業所の利用者の状況報告や取り組みについて共有し、意見交換している。また、地域の方々から生活に困りごとを抱えている方が支援を必要としていないか、見極めるように努めている。運営推進の会議の内容が全職員に周知されていないことが課題である。	運営推進会議を2か月毎に小規模多機能ホームと合同で開催している。メンバーは、利用者家族、自治会副会長、地区老人会会長、民生児童委員、地域包括支援センター職員、消防署員、福祉関係の方々で構成され、事業所としての現状を伝えるとともに、それぞれの立場や機関からの意見や情報提供など、様々な情報交換の場となっている。	運営推進会議は、事業所が地域に開かれたサービスを提供することで、より高い質を確保することを目的としています。その受け手としてグループホームの利用者・家族が参加し、意見や感想等を会議の議論に反映させる事は、更なるサービスの向上に繋がるものと期待されます。また一般の介護職員も出席することで、直接参加者の意見や要望を伺い、事業所の役割、自分の立ち位置を改めて知る得る機会となることから、併せて参加の検討を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	金銭的に施設生活を継続することが困難な利用者様を今後、どのように支えていくかを市の担当者様に相談し、関係性を築くようにしていた。	運営推進会議メンバーとして直営の地域包括支援センター職員が参加しているので、会議の際には指導や助言を得たり、情報交換を行っている。要介護認定申請などの介護関係の書類提出については、市に直接出向き、利用者の手続きや相談など、担当者と連絡を取り合える関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	リスクマネジメント委員会の中に身体拘束廃止担当を設け、年間の取りくみの計画を立てている。身体拘束、虐待防止を意識するようにポスターを作成し、掲示している。年に4回、法人内と事業所内で研修会を行い、理解を深めている。	身体拘束廃止の指針を作成し、リスクマネジメント委員会の中に設けた身体拘束廃止担当を中心に、毎月の会議を開催している。年間計画に沿って研修を行うとともに、事業所内にポスターを掲示し職員の啓発に努めている。スピーチロックにも気を配り、言い換えなど代わりになる言葉を具体的に確認し、使うよう心掛けている。	

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム 長寿庵

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止担当職員を中心に、虐待の芽チェックシートを記入してもらい、職員に各々に対応について振り返りをする機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	年間研修計画の中で令和8年2月に権利擁護についての研修会を実施する予定である。研修担当の職員を外部研修に参加させ、研修内容を考える材料を職員自ら調べて資料を作成する事で学びの場にもなっている。成年後見制度については職員により、理解できていないため、勉強会は必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書や重要事項説明書に沿ってわかりやすい言葉を心がけるように説明している。また、料金についても加算等の説明も行っている。入居後も心配事や相談等があればいつでも気軽に相談してもらえようとお話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時に家族と話をする機会を作るようにし、施設内での様子を伝えるとともに、ご要望を聞いた際はできる限り要望に添えるよう努めている。また、どなたでも意見や苦情を伝えやすいように、苦情等受付ボックスを設置している。ご要望の内容は管理者や職員間で情報共有し合い、利用者様、ご家族様の声を大切に、より良い支援が出来るように工夫している。また、3ヶ月に一度ご家族様宛に写真付きのお便りを送付している。	家族からの意見や要望は、面会時や病院同行で来所した際に伺っている。3ヶ月に一度利用者の様子を写真に居室担当者のコメントを記入したお便りを添えて家族に送付し、また長寿便りを2ヶ月に一回送付し、それらを基に意見や要望を伺っている。家族からは、「散歩をさせてほしい」など日々の暮らし方についての要望が多く、出来る限り意見や要望を取り入れて実践するように努めている。利用者からも同様に、外出や買い物などの希望が出され、お天気や職員体制を確認しながら対応している。	

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム 長寿庵

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	事業所会議内で職員間で意見を出し合い、反映させている。職員皆で取り組める日々のコスト削減については少額からでも節約できるような工夫するようにしている。	年2回介護リーダーと職員との個人面談を実施し、業務に対する個人目標の設定と作成(5月)、振り返り(11月)を行っている。また資格取得の希望を聞き、勤務調整をする等の便宜を図っている。毎月1回定例の職員会議を開催し、運営に関する課題についても意見を出し合っており、業務改善の一環として記録の仕方について協議し、より効率的な方法について検討し現在も試行中である。また職員の悩み等は、日々の業務の中で聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回、管理者、主任、リーダーと1on1面談を実施し、個別研修目標を立てて目標を達成できるように努めている。面談では日々の思いや考えについても聞き取りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間研修計画を立て事業所会議内部研修を行っている。当該時間に研修に参加できない職員については代替え研修を行い、学べる工夫をしている。また、個別研修計画の中で外部研修参加の意欲を示している職員に対して参加できるよう調整している。 技能実習生を受け入れているため、技能指導員を中心に介護技術について指導し、トレーニングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホームの実践報告会に参加し、他事業所の事例を参考に利用者を取り巻く環境へのアプローチや、認知症ケア等を学ぶ機会を設けている。そこで、他事業所の悩み等を個別に相談できるネットワーク作りを心がけている。また、他事業所からの施設見学を受け入れ、意見交換会を行うことができた。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム 長寿庵

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	前もって実態調査を行い、できそうなことや注意事項等を事前に職員に周知している。生活の中でできる強みを見つけ出し、役割としてケアプランに反映させるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約時にご家族様から心配事や不安ごとを伺うようにしている。利用者様の体調の変化や必要物品がある場合にこまめに連絡を入れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者様、ご家族様のその時点で必要としている支援を見出し、他に必要なサービスや福祉用具があれば専門機関との連携も考慮するようにしている。また、受診時に介護タクシーや知人の方の協力で入居様が受診できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	事業所会議内でカンファレンスを実施し、利用者様が日々できることをあげてもらい、役割を持って生活ができるように掃除や洗濯たみなど職員と一緒にしている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム 長寿庵

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が面会にいらした際は居室で一緒にお茶を楽しんでもらうようにしている。できる限る受診の対応はご家族にお願いするようにし、身体的なご様子がわかるようにしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔からのお知り合いの方と連絡を取るようし、一緒に病院受診や美容院に行くことができるよう馴染みの関係が途絶えないようにしている。昔からのご友人が来た際は、ゆっくりお話ができるように利用者様の居室に通すようにしている。	面会は特に制限しておらず、家族以外の人も自由に面会することができ、中には友達が毎週来所し、病院の受診と美容院へ連れて行ってくれる馴染みの人もいる。入居前からの行きつけの理美容院へ定期的に行く人が3、4人いるほか、馴染みの和菓子屋へ行ったり、ドライブのついでに自宅の近くを通ったりして馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様の性格や気性に合わせて席の配置の工夫をしている。バランスよく利用者に関わり、寂しい思いをしないように声掛けしている。関係性があまり良くない利用者同士がかち合わないよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者様がグループホームでの生活が困難となり、契約終了せざるを得ない状況になっても新たな生活をスムーズに始められるよう、特別養護老人ホームや医療連携室と相談し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	3ヶ月に一度、モニタリングを行い利用者様の意向を聞くようにしている。また、日々の会話の中から興味のあることや昔の話を引き出し、ケアの中に取り入れている。会話のキャッチボールが困難な利用者様にはご家族から今までの生活の様子等をお聞きしている。	利用者のほとんどは会話によるコミュニケーションが可能だが、日によって調子が変わる利用者に対しては応えやすい質問をするなど工夫して対応している。普段の何気ない会話の中からキャッチした思いや意向は、ケアカルテのエピソード欄に入力して職員で共有するとともに、介護計画にも反映させて支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前にいただいた情報を確認後、実際に住まいを訪問し、日々の生活環境を把握するようにしている。入居後はその方の個性や習慣を理解し、尊重している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝食後にバイタル測定するなど、日々の体調管理に努め、記録を通して情報共有し合っている。利用者様の一日の過ごし方を把握し、情報を得るようにしている。また、カンファレンスの中で利用者様の状態や課題について職員間で意見交換し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	何か一つ役割を取り入れたプランを作成している。3ヶ月に一度、モニタリングを行い、プランが適正であるか、会議内で検討し、実践している。運営推進会議内で、現状報告を行っているが、当該事項について積極的な意見等が出されることは少ない。	基本は3ヵ月ごとにモニタリングを行い介護計画を見直している。モニタリングは居室担当者が主となり、日々の状況をまとめたものを計画作成担当者がプランに反映させている。会議で行うカンファレンスで計画原案を確認し、家族来所時に直接説明し確認している。利用者本人にも説明して日々の支援につなげている。	

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム 長寿庵

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常の様子やケアに関する事はケアカルテに記録を残すようにし、利用者様の変化等あればケアの見直しを行っている。また、業務の申し送りについてはノートを活用し、職員間で情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	買物や衣替えなどの要望を可能な限り叶えられるよう、業務の調整をし、できる限り希望に沿えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	訪問カットや訪問歯科を利用し、食事への楽しみ、身だしなみの配慮等、生活に張りを持ってもらうようにしている。行事等にはボランティアを受け入れたり、保育園児と交流する機会を作り、地域資源を活用している。地域の方と交流を深めることで少しでも社会参加ができているという意欲につなげている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	体調不良等あればご家族に連絡し、可能な限りご家族に対応してもらっている。遠方などご家族の都合が合わない時は施設で受診対応している。	定期的な病院受診をしていない方が1名。8名の利用者は入居前からのかかりつけ医を受診し、基本的に家族が受診対応をしている。家族対応が難しい場合には、利用者の健康管理や服薬管理をしている看護師が代わっている。受診時には、血圧のデータ、採尿の結果など必要項目をコピーし、情報として家族に説明して渡している。受診後は家族から医師の指示などについて報告を受け、事業所の看護師を中心に情報共有を図っている。	

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間、看護師と相談や連絡が取れる体制が出来ている。利用者様に状態変化があった場合はなど、看護師に相談し、利用者様個々に適した対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病棟看護師と連絡を取り、入院時の支援説明を受けている。退院の目途もその時に聞くことができ、退院許可が予定より早く出た場合も速やかに退院対応出来るよう業務の調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に状態に変化があった場合の説明をし、利用者様やご家族の意向を確認している。当施設では設備的にどこまで支援できるかも説明し、生活が困難な場合においては県立病院の医療連携室の相談員や看護師に相談するようにしている。また、主治医の指示でDNARの書類をもらっている利用者様が急変となった場合も速やかに動ける体制ができている。	入居の際、利用者、家族の意向を確認すると共に、事業所として看取りは行っていないこと、入浴設備の状況から重度化への対応には限界があることを家族に説明している。利用者の状態が重度化し、事業所の設備等では対応しきれない時や、要介護3の認定を一つの目安に法人内の特別養護老人ホームや介護老人保健施設への申し込みなどの情報提供を行っている。家族には法人が特養等を運営している事で、施設替えについても相談がしやすく、安心感をもって受け止められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	今年度は全職員が参加できるように2つのグループに分けて最寄りの消防署にて救命救急講習を受講している。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム 長寿庵

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	7月・日中想定避難訓練、11月・夜間想定避難訓練、水害時災害訓練を実施している。消防の立ち会いで、運営推進委員や地域住民と一緒に訓練を実施。訓練後は反省会を行い、消防職員や運営推進員、地域住民から課題点や意見をいただいている。事前に避難訓練の日時は自治会の方に伝え、地域の方々にお知らせしてもらおうようお願いし、参加してもらっている。	市のハザードマップでは水害の危険区域に指定されており、水害時には垂直避難としている。年2回(7月、11月)火災訓練と水害時の避難訓練を小規模多機能ホームと合同で実施している。訓練には運営推進会議の地区代表の委員の呼びかけで、十数名の住民の参加協力が得られている。職員が手薄になる夜間に火災が起きた場合に地域住民に助けを求めらるよう赤色灯を設置している。発電機や反射式ストーブ、3日分の食料備蓄、業者による消防設備の定期点検を実施し日頃から備えを行っている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	1人ひとりにあった声掛けを行い、プライドやプライバシーを傷つけないように配慮している。申し送り等で利用者様の名前を言わないといけない時は居室番号で伝えるように工夫している。	排泄介助や入浴介助など羞恥心の伴う介助への配慮を心掛けて対応している。聴力が低下している利用者も多く、日々の観察によって聞こえの良い側の耳元で声の大きさやトーンなど、その人に合った方法で伝えるよう配慮している。また、自己決定しやすよう、利用者個々の判断能力に合わせ質問の仕方も工夫して対応に努めている。一人ひとりに合わせた対応をし、プライドを損ねないよう心掛け実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様の希望で、美容院や受診がしたいときは外出するようにしている。日常の会話の中でどんなことがしたいか、どんなものがお好みで食べたいか等、希望を聞き取るようにしている。大勢の中での行事などが苦手な利用者様にお声がけしても断られることがあるため、無理せず対応している。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム 長寿庵

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の過ごし方は職員の決まりを押し付けず、自由に過ごしてもらっている。歩行状態が悪い利用者様が、突然立ち上がったときなどは職員の都合を優先にせず、支えながら一緒に歩くなど利用者様を理解した支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服が欲しいと要望があった利用者様と一緒に買い物に出かけ、おしゃれを楽しんでもらった。起床後は洗顔タオル準備したり、髭を剃るように促している。 爪が長い時は、自分で切れる方には職員が見ているところで自分で切ってもらおうようにし、自分で切るのが困難な方には入浴後に爪切りをするようにしている。 訪問カットも行っているため施設に来ていただき、散髪も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	薬物野菜を切ってもらい一緒に調理を行ったり、小規模多機能の利用者様と一緒におやつ作りを定期的実施している。 食事前にはテーブルを拭いてもらうように促し、清潔保持にも努めている。 今年度から味覚祭を企画し、季節の食材を味わうこともできた。	ご飯とみそ汁は手作りし、主菜、副菜は業者から3日分ずつ配送されている。業者から1か月分の献立表が届き、日々の塩分の摂取量、カロリー量など細やかに計算されている。行事の時や利用者からのリクエストなどは、手作りメニューに変えたり、外食ドライブを取り入れたり、また調理師資格を持つ介護スタッフが、利用者と一緒にのおやつ作りを工夫するなど、食に関する楽しみが広がっている。利用者は、食材を切ったり、テーブル拭き、ゴミ捨てなど出来る事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事状況に合わせ、食事量が少なめな利用者様にはご飯やおかずを小盛にして提供、水分量の少ない利用者様には飲み物を甘めにしたり、お好みの飲料を提供するなど工夫をしている。また、食事摂取量や水分摂取量は毎食記録している。 「いただきます」の号令をかける利用者様を決め、食事前の号令は自分の役割だと使命感をもって行っていたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、一人ひとりに声掛けをしている。一部介助が必要な利用者様には職員が付き添ってケアしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄のパターンを把握し、必要な利用者様には定時に排泄の声掛けを行い、トイレ誘導している。尿量に合わせて昼用と夜用の尿取りパットを使い分け、経済的な負担の軽減にも考慮している。プライバシーに配慮し、安全に排泄をしてもらうよう工夫している。	排泄パターンを把握して、タイミングを見てトイレ誘導し失禁防止に努め、排泄に失敗した時には他の利用者に気づかれないよう対応をしている。入院により紙パンツ着用になって退院してきたが、事業所で自立に向けた支援に取り組んだ結果、入院前の状態に戻ることが出来た利用者もいる。一人ひとりの尿量に合わせて、尿取りパットを使い分ける等、きめ細やかに排泄の自立に向けた取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘気味で水分が少ない利用者には飲み物を多めに摂取するように促し、また、飲料にオリゴ糖を入れたり、フルーツやヨーグルトなどを使って腸に良さそうなものを取り入れている。お昼前の体操に腸のマッサージ体操を取り入れている。便の状態にあわせて下剤の量の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴好きな利用者様は週3回程入っている。気が乗らない方もいらっしゃるため入浴する順番にも工夫をしている。お声がけしても入浴が難しい時は翌日に変更したり無理強いをしないように対応している。そういう方でも週2回は入浴できるようにしている。 入浴中は、職員とお話をしたり、歌を聞かせたり気持ち良く入浴してもらうよう心がけている。	週3回午前中の中の入浴を基本としているが、一人ひとりの希望やタイミングを大切にしている。気が乗らない利用者に対しては、様子を見ながら順番を変えたり、翌日に変更するなど無理強いをしないように努めている。異性介助を嫌がる方はおらず、季節に合わせて「菖蒲湯」や「ゆず湯」にし、入浴が楽しめるよう支援している。入浴時間は、職員とのコミュニケーションの場となっている。	

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム 長寿庵

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼食後は1時間ほどお昼寝の時間を設けるようにし、居室で休まれる方、リビングの小上がりで休まれる方など利用者様が自由に休息できるようにしている。 夜間は利用者様個々に就寝時間が異なるため早めに居室に行かれる方、テレビをみてから休む方とご本人のペースに合わせている。冷え性の利用者様には湯たんぽの準備をしている。居室の温度にも気を配るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師が毎日、朝・昼・夕食前後薬、就寝薬を準備するので準備した薬を早番職員が間違えなく薬が準備されているかをチェックしている。利用者様へ服用させるときは職員同士ダブルチェックをし、誤薬事故を防いでいる。 利用者様、一人ひとりの服用している薬を全部理解をしているとは薬が変更になった時など、記録を通じて情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎日、職員が工夫し、体操やレクリエーション活動など体を動かす時間を設け、運動不足の解消に努めている。また、掃除や洗濯たみ、ゴミ捨てなど自分の役割を持っていただき、自立した生活を促している。 毎週金曜日は「もっきりの日」にし、お好きな飲み物を提供している。晩酌が好きな利用者様には毎夕食時にノンアルコールビールを提供し、喜んでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は屋外を散歩したり、季節に応じてお花見ドライブ、新緑ドライブ、紅葉ドライブを企画し、少し遠くの景色を楽しんでいただいている。 また、ご家族と一緒に外出に出かけられることもあり、とても楽しんでいただいています。	年間行事として春にはお花見や新緑、秋の紅葉ドライブを計画して実施しているほか、お天気の良い日には近所を散歩するなど日常的な外出を支援し、利用者の心身のリフレッシュに努めている。また、家族の協力を得ながらできるだけ本人が希望する場所へ出かけられるように支援している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 長寿庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在1名の利用者様のみ缶コーヒーを購入するためにお小遣い程度の現金を持たせ、管理していただいている。缶コーヒーのみの購入ですがご自身で管理するという視点で支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	利用者様から電話をかけたい、手紙を出したいという要望が聞かれることがないため支援できていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	室内の温度、湿度管理、定時に換気を行っている。また、日差しが強い時間のみリビングの障子を閉め、過ごしやすいように工夫している。夏までは職員と一緒にプランターに朝顔を植え、水やりに行ったり、散歩のときには摘んだお花を花瓶に差し、リビングに飾り和んでいただいた。定期的に季節に応じた装飾も行っている。	ホーム中央のリビングには、テーブルやソファ、小上がりが配置されており、利用者は好みの場所に座ったり横になったりと思い思いにくつろいでいる。リビングの対面にあるオープンキッチンからは、食事の支度をする様子が見え、音や匂いなど家庭的な雰囲気を感じることができる。室内はパネルヒーターとエアコン、加湿器が設置されて、温度や湿度が快適に保たれている。壁には絵馬や福笑い、習字など利用者の作品が季節感豊かに展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	その日の気分で居室で過ごしたり、リビングで過ごしたり、自由にいただいている。時代劇を見たい方には専用のソファで時代劇専門チャンネルを鑑賞出来るようにセッティングしている。気の合う同志、席に座り会話を楽しんでいる。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム 長寿庵

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている。	居室に写真を飾り、喜んでいただいている。すぐ に乱れてしまいますが、定期的に職員と一緒に 衣類の整理整頓を行うようにしている。	ベッド、パネルヒーターが備え付けになっていて、 利用者は使い慣れたチェストなどを持ち込んで、 衣類など整理整頓を行っている。入口には手書 きの表札が掲げられ、自分の部屋が分かるよう にしている。居室には好みの物を持ち込んで自 由に使って良いことを説明しているが、居室は就 寝するために使用している利用者が多く、馴染み の物などを持ち込むことはまだ少ない現状となっ ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫してい る。	リビングで歩行時つまづいたり、車いすがぶつ かったりしないよう、利用者様に椅子を整えるよ うお願いし、自立支援に繋げている。 居室やトイレに表示をし、迷わないようにしてい る。		